

東京大学大学院人文社会系研究科  
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣  
帰国報告（2012/10/16 提出）

## 古代韓国出土文字資料の比較研究

氏名 有富 純也  
所属 日本史学研究室 助教  
派遣形態 個人派遣

### 派遣先の基本情報

派遣先 韓国（9/18→慶州、9/22→羅州周辺、9/25→扶余周辺、9/29→ソウル）  
派遣研究機関名 高麗大学日本研究センター  
受け入れ教官 宋浣範 教授  
派遣期間 2012年9月17日～10月3日 17日間

### 主な研究成果

#### （1）当初の計画概要

現在の日本古代史研究では、東アジア、あるいは東部ユーラシアを視野に含めた研究を行うべきことは、すでに常識化している。筆者は、そのような視点を含めつつ、日本古代国家の特殊性を考えるために『古代国家支配理念の研究』を執筆したが、その後の研究である出土文字資料の研究については、日本に限定された研究にとどまっており、東アジア的な視点を含める必要があることを痛感している。

そのため、韓国や中国における七世紀前後の遺跡と、そこから出土した文字資料について検討を行うことが急務である。特に韓国の木簡研究については、最近十年近くで長足の進歩を遂げており、現地赶赴して情報収集をする必要がある。

そこで今回の派遣を通じて、韓国における出土文字資料の研究状況、あるいは韓国木簡を実見し、詳細な検討をすることで、今後日韓出土文字資料研究の基礎となることを目指したい。そのため、韓国出土文字資料研究を熟知している高麗大学日本学研究中心教授・宋浣範氏に受け入れとなっていただき、情報を提供してもらう予定となっている。

#### （2）実際に達成された成果

韓国全国の木簡出土地点、あるいは出土遺物の調査のため、全国を調査した。慶州では雁鴨池・月城遺跡の現地調査、およびそれらの地から出土した木簡を調査し、国立慶州博物館の張龍俊学芸研究官に便宜をはかっていただいた。羅州の伏岩里遺跡を踏査し、木浦

では新安沈没船から出土した東福寺関係の木簡も調査した。扶余では官北里遺跡の現地調査、それらの地から出土木簡などを調査し、国立扶余博物館の具門慶学芸研究士に便宜をはかっていただき、複製ではあるが、弥勒寺から最近出土した舍利奉安記の調査も行い、具先生から最新研究の情報を得た。これとは別に具先生からは、韓国では墨書土器はほとんど出土せず、刻書することがほとんどであるという重要な情報も得た。ソウルでも、高麗大学日本文化研究センターの宋浣範教授から最新の韓国出土木簡の情報について提供いただき、国立中央博物館の李炳鎬学芸研究官からも、伏岩里遺跡木簡に関する、韓国での最新論文について、レクチャーを受けた。

### (3) 今後の研究展望

今回の調査において、韓国から出土した木簡およびその出土遺跡の多くを調査することが出来たが、いくつかの遺跡や木簡は実見することができず、特に咸安の城山山城、益山の弥勒寺の調査を行えなかったのは遺憾である。今後機会をみて、更なる調査を行いたい。また、土器に記された文字については、日本と異なり韓国では墨書する場合が少ないという知見を活かし、日韓でなぜそのような相違が出るのか、考えてみる必要性を痛感した。先述のように韓国木簡研究は長足の進歩を遂げているものの、刻書土器研究は寡聞にして知らない。そこで今後は、韓国の刻書土器のデータベース化をはかり、新たな研究の地平を開きたい。